

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三ー五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
http://www.neues-asahi.jp

幼少期から小・中・高校と桐生で育ち、東京芸術大学、同大学院を修了。二〇〇一年に岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞、二〇一三年には著書「ヘンな日本美術史」で小林秀雄賞を受賞。

超高層ビルと日本家屋やバイクにまたがる武士。古今東西の融合したユニークな画面を創り出している山口晃氏が桐生市の「芸術大使」第一号に任命され、その任命式と記念講演会に行ってきました。

「情熱大陸」「日曜美術館」で制作姿を見たり、話を聞いたり、以前、NHKの「たけしアート☆ビート」にゲスト出演していました。

十五分ほどの任命式の後、二時間近くを懐かしい桐生の話や、桐生の俯瞰（ふかん）図を江戸時代から空想の未来まで複層に描いた「ショッピングモール」の制作についての話、さらに「道後アート2016」で展開した作品を映像で紹介。意欲的でサービス精神旺盛な姿勢に感動し、人間的な魅力に好感が持て、今後の活躍が楽しみです。

ノイエスでの多くの作家の個展に際しても、長い時間を作品のテーマや制作過程、作家個人についての考えや方向性、人間関係について話します。二十数年前には、居酒屋や喫茶店でそんな話をする機会は何度もありましたが、今ではノイエスでの会話は貴重な時間です。来廊された折には是非、作家との会話を楽しんでください。

朝晩だいぶ涼しくなってきました。「読書の秋」「芸術の秋」という言葉をあまり耳にしなくなってきました。早朝の涼しい一〜二時間は、集中して活字と向き合える時間です。

読みたい本や読まなければならない本がテレビの横に山積みされていますが、書き手の顔や人柄を知っていると何故か活字からその人が身近で話しているような錯覚を起こしてしまいます。

小沢書店で良書を数多く出版していた長谷川郁夫氏の著書「吉田健一」を手に取り読み始めていますが、六五〇頁ほどの厚い本ですが、興味深く、名編集者としての力を感じました。

山口晃氏の事を調べていたら着物を着て落語をしている姿を発見。以前、作家の水上勉先生の家でプロの落語家のように語っていた長谷川郁夫氏の姿を思い出し思わず笑ってしまいました。

長谷川氏は、「われ発見せり 書肆ユリイカ・伊達得夫」、「堀口大學詩は一生の長い道」や作家たちとの交友録などの著書もあります。今では、大阪芸術大学教授。ちょっと私より年上ですが、誕生日が同じだったことに「えつ」と声が出ました。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

松尾昭典作陶展 〈企画〉

会期 十月七日(土)〜十五日(日)
午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

松尾昭典氏の二年ぶりの個展です。

真鯛、石鯛、トラフグ、メバル、カサゴ、虹鱒、鯰、鯉、鮎、鮎、イワナ、ヤマメ、アマゴなど、今にも泳ぎだしそうなりアルな陶作品に仕上がっています。また、日常使用する茶碗や皿、小鉢などの食器類は、使いやすく、花器なども一点一点に心がこもっています。松尾昭典氏の作品に対する姿勢がうかがえます。

丸尾康弘木彫展 〈企画〉

会期 十月二十一日(土)〜二十九日(日)
午前十時〜午後五時三十分(最終日は五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

木という素材から創り出される丸尾康弘氏の作品には不変的な優しさや温かき、愛情が感じられます。そして、そのゆつたりとした独特なフォルムからは小さな魂を包み込んでくれるような世界観があります。作品から溢れだすような小さな一粒一粒の光が飛翔するような作品、息づかいを体感してください。

ノイエス ふる本市

会期 十一月四日(土)〜十二日(日)
午前十時〜午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

〈書籍のご案内〉

御訴訟申上候

江戸期百姓のアクティヴィティ

亀井 秀雄

粕川村字女渕(当時)の実家から持ち帰った古文書を、四十余年かけて丹念に解読。

文学研究者・亀井秀雄が故郷に贈る最後の著作！

領主の入れ替わりに伴い、トラブルに巻き込まれようとも、役人の不正に直面しようとも、知恵を尽くして合理的に解決しようとした、近世の上州百姓たちの闘いの記録！

定価三〇〇円(税込)

お問合せ先：ノイエス朝日

DIPS.A news Vol.49

古文書講座 受講者募集

昨年、ご好評いただいた古文書講座を今年もDIPS.A(ディップス朝日)で開催します。

「ぐずし字」をサラッと解読し、歴史背景を解き明かしながら古文書に織り込まれたメッセージを汲み取ることを目的とします。誰でもわかりやすく、楽しみながら古文書を学ぶことができる講座です。

応募要項

日時…平成29年10月14日〜11月11日の毎土曜日(全5回)

午前10時〜正午

場所…DIPS.A 2階

講師…南京師範大学文学院 客員教授 小沢梓氏

定員…40名(定員に達し次第締め切り)

受講料…5000円(テキスト代含む)

募集期間…9月11日(月)〜10月5日(木)まで

申込方法

往復はがきおよびFAXにてお申込いただけます。

①はがきの宛先

〒371-0846 前橋市元総社町70-1

DIPS.A「古文書講座」係

②FAXの宛先

027-254-1227 DIPS.A「古文書講座」係

①②いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、ご送付ください。

二〇一八年 新春特別企画 〈ノイエス予告〉

「かがやく石川のKÖGEI」展

日本工芸会石川支部 川北浩彦（木竹工） 吉田幸央（陶芸）
坂本康則（漆芸） 荒川文彦（漆芸）
多田幸史（陶芸） 四ツ井健（染色）

「ノイエスだより」48号でご案内いたしました二〇一八年新春特別企画「かがやく石川のKÖGEI」展につきまして、二〇一六年にご縁ができました友禅作家の四ツ井健氏からご紹介の文章をいただきましたので、今回から二作家ずつご紹介をしていきます。

◇ ◇ ◇

二〇一六年一月に藍田愛郎氏（江戸小紋）とノイエス朝日で二人展を開催させていただき早二年が経ちました。

この時のご縁を何か素敵な事に繋げることが出来ないかと考えていたところ、ちょうど北陸新幹線も石川県・金沢市まで延伸し、観光や仕事等で益々身近になった群馬と石川を繋ぐ一つの架け橋となればとの思いが実り来年一月の新春企画として実現することになりました。

「かがやく石川のKÖGEI」展では、日本工芸会石川支部の元氣な仲間、作家六名による四部門（陶芸・染色・漆芸・木竹工芸）のミニ工芸展です。

展覧会に出品する作品とは一味違った小さな作品から大きな作品までバラエティーがありながら個々の作家の高度な技術と個性が凝縮された特別な展覧会です。

どうぞ群馬県の皆様の方々にご高覧頂けるよう願っております。

四ツ井 健



神代樽造水指

川北浩彦（日本工芸会正会員）

昭和37年 石川県加賀市山中温泉に生まれる
父、良造（重要無形文化財保持者）に山中轆轤挽物技術を修得する
石川県挽物轆轤技術研修所 講師
石川県輪島漆芸技術研修所 講師
日本伝統工芸展（特待） 第一次鑑査委員 2回
日本伝統工芸展 3回受賞
伝統工芸木竹展 2回受賞
第15回MOA岡田茂吉賞 優秀賞受賞
三越、阪神、西武、東急、松坂屋などで個展、父子展

平安時代から轆轤挽物の技術が受け継がれ、山中温泉も漆器の生産地として古くから栄えております。

四季に育まれ国土の七割を森林に覆われている日本であるからこそ私たちは木材を活用し、木工芸品も生活の中で息づいていると思います。

本来、漆器は木地、下地、上塗り、蒔絵など分業で完成していきますが、私の作品は、祖父からの素材を使用し本業である轆轤挽物から木目の見える漆仕上げまで全てを手掛けております。

木には、それぞれ特有の美しい木目があり、その木味を生かした心和む作品を出品しておりますので、何卒ご高覧賜りお楽しみいただければ幸いです。

川北浩彦



多田幸史

1973年 石川県金沢市生まれ
2006年 石川の伝統工芸展奨励賞受賞
2007年 第54回日本伝統工芸展初入選
以後、55回展～64回展入選
2008年 伝統九谷焼工芸展優秀賞受賞
石川県立美術館買上
2010年 日本工芸会正会員に認定される
2011年 石川の伝統工芸展北國新聞社社長賞受賞
2012年 伝統工芸陶芸部会展日本工芸会賞受賞
2015年 第62回日本伝統工芸展で日本工芸会新人賞受賞
日本工芸会正会員 日本陶芸美術協会会員

台所の風景

食事を整える台所とは魅力的な場所です。

食器戸棚には陶器、磁器、漆器、ガラス、木器や、あらゆる調理器具が置かれています。

先日、料理研究家の土井善晴氏の番組を見ました。その中で器選びの話があり「なるほど」と学ぶことが多く感心させられました。

器を購入してから料理を考えたり、旬な食材の料理を考えて器を選んだり……楽しいだろうな……と。

ギャラリーやデパートに行くと必ず食器が展示されているフロアーを見ることができます。

四季折々の草花や食材が描かれた器や作家の作品に惹かれるものがあると手に取り、ちよっとした珍しい小物があれば食卓に「花」が咲いたような力になる場合もあります。

ノイエスで個展をされた作家の作品も自宅の食器戸棚に並べてありますが、スーパードで買った刺身も、ある作家の器に庭から摘んだシソの葉や花を添えただけで一流の料亭で出された一品に早変わりします。

絵付けの小皿でさえもテーブルに「花」を添えてくれます。もっと料理の基本をしつかり学びたい……とも思いますが、食材の特徴や栄養も知りたいと思うと同時に、日常使う器についても来年の一月六日から始まる「かがやく石川のKÖGEI」で新しい出会いがあること、そして新しい作家に出会えることを楽しみにしています。

友禅作家の四ツ井健氏が言われているようにノイエスで石川の作家の作品を多くの皆様にご覧になつていただき、伝統的な仕事に新しい風を吹かせている作家たちの作品を楽しんでいただければと思い、少し早いお知らせですがご案内させていただきます。

（武藤）

ノイエス朝日の二〇一七年十二月までのスケジュール（携帯用）を同封させていただきます。

名刺入れや財布に入れてご利用ください。

なお、ノイエス朝日は、展覧会会期中以外は休廊している場合がありますので、お問合せ、またはご用の方は、展覧会会期中にお電話ください。

多田幸史